

第 27 回ロシアカザンユニバーシアード大会を終えて

—サッカー競技—

李 宇諤 (法学部准教授)

はじめに

ロシア・タタルスタン共和国の首都カザンは、モスクワから東方へ 500km の距離に位置するロシア国内で第 3 の都市である。2018 年 FIFA ワールドカップ ロシア大会の競技会場として建設された KAZAN ARENA (観客収容人員 4 万 5 千人) をはじめ、今回のユニバーシアード大会のために各競技施設や広大な選手村施設を新設し、空港や道路等の社会インフラ整備も急速に進められ、市内は活気に溢れていた。

大会の総合開会式には、ロシアのプーチン大統領が登場して開会宣言をするなど、国策として国際社会へのアピールをしたい意欲が伝わってきた。ユニバーシアード競技大会以外にも今夏の世界陸上選手権、ソチ冬季オリンピック、2018 年 FIFA ワールドカップ開催など、世界的イベントを次々に誘致しており、スポーツを通じての国際交流により、実績を残し、国際社会のリーダーを目指したいロシア政府の意図が明確に表れていた(文：乾)。



その中、第 27 回ロシアカザンユニバーシアード大会まで約 2 年間準備して来たユニバーシアード男子サッカー日本代表は 6 月 30 日一足先選手村の新しい生活へと入り込んだ。

今大会の施設は、新築の建物であるため施設はきれいで清潔感があった。男子サッカーチームは日本選手団棟の 2 階、部屋はスタッフ、選手ともに 4 人部屋で少し狭い感じではあったが生活をする分には問題はなかった。

初日を迎えた我々は、長時間の移動の疲れや時差の影響などを考慮し起床の時間を遅らせた。そして、スケジュールの確認を行うため運営本部である Main International Centre (MIC) で確認を行い、バスの出発時刻は毎回トレーニング開始の 1 時間前と、試合当日は競技場に 1 時間 30 分前に到着出来るようにバスの出発時間が設定されていた。しかし、初日は AD カードの発行が遅れたため食事の時間とバスの出発時間を遅らせて対応した。慌ただしいスタートであったがこれが海外では当たり前なことだと思いながら臨機応変に対応する事がスタッフの仕事であることを改めて感じた(文：李)。

試合の結果

全日本大学サッカー連盟とユニバーシアードの関係は、1995 年に開催された福岡ユニバーシアードからで、過去 5 回の最多優勝

国であった。特に 2001 年北京、2003 年大邱、2005 年イズミルでは、史上初の 3 連覇を達成し、ユニバーシアード日本代表チームのレベルの高さを世界に轟かせました。その後は、2007 年バンコクで 5 位、2009 年ベオグラードで 3 位、そして前回 2011 年深圳で 5 度目の優勝を成し遂げた。そのため、多くの関係者の方々から 2 連覇を期待する声が高く、監督自身も選手も、必ず優勝し 2 連覇を達成するという目標を掲げ、本大会に臨んだ。上記のように、Group B のユニバーシアード日本代表は、死のグループと言われた中で 3 戦全勝、勝点 9、9 得点 1 失点という素晴らしい成績で、決勝トーナメントに進出した。

決勝トーナメント 1 回戦は、Group C から勝ち上がったマレーシアに 4:0 で快勝、2 回戦準決勝、ベオグラード大会から同一監督で強化してきたフランスと対戦したが、前後半 1:1、決勝戦以外延長戦の無い本大会規定のため、即 PK 戦が行われ、残念ながら破れ、決勝戦進出を逃してしまった。3 位決定戦は、準決勝イングランドに敗れた地元ロシアと銅メダルを賭け対戦し、3:0 で日本代表チームが完勝した。

今大会で優勝し 2 連覇を目指すことを目的としたユニバーシアード日本代表チームは、準決勝戦フランスとの対戦、PK 戦で敗れ、大きく落胆しましたが、気持ちを切り替え 3 位決定戦で地元ロシアを相手に最高の試合内容で完勝、銅メダルを獲得、2013 ユニバーシアードカザン大会を終了。中一日 6 試合と



いう過酷な本大会、90 分ゲームの中で負け無し、合計 17 得点 2 失点という素晴らしい内容で戦ってくれた選手諸君に感謝の気持ちと大きな拍手を送りたいと思う (文：吉村)。

終わりに

今大会での私の業務は総務兼コーチであり、まず総務としての具体的な仕事の内容を事前に把握しておく事が必要であると感じた。その中で JOC 本部、JFA との連絡や団費の管理などの仕事は私にとって非常に有益な経験であった。

コーチとしては、2012 年度 3 月のデンソーチャレンジカップ宮崎大会をはじめ、デンソー

日韓戦 (ホーム)、8 月のスペインアルクディア国際ユース大会、2013 年度 2 月宮崎キャンプ、3 月デンソーチャレンジカップ鹿児島大会、ドイツ遠征、デンソー日韓戦 (アウェイ)、6 月ロシアカザン直前合宿、最後の本大会までコーチとして参加させて頂き、競技力向上においては選手やチーム共に著しく成長がみられた。これは、吉村監督の本大会に向けての明確なプロセスやチームコンセプトがあり、そのコンセプトの下で選手、スタッフ皆が努力した証であると考えられる。結果的には銅メダルを獲得したが今大会 6 試合の内容に関しては金色のメダルの価値があると思う。

今大会において乾チームリーダー、吉村監督、松本コーチ、吉田コーチ、伊藤コーチ、

島ドクター、加藤トレーナーの皆さんに助けられ無事に終えたことに関して本当に感謝を申し上げたい。まだ今大会に参加し貴重な経験をした選手たちが今後プロサッカー選手として良い活躍ができることを心より祈る。

最後に今大会のような素晴らしい機会を与えてくださった日本サッカー協会の関係者、全日本大学サッカー連盟の関係者、JOC の関係者の皆さん、そして、本大学の関係者の皆さんに心よりお礼を申し上げたい。



UNIVERSITY OF KAZAN 2013 RUSSIA											Football Фุตบอล				
											MEN Мужчины				
Competition Summary															
Итого атака / Итого типера															
As of TUE 16 JUL 2013															
Group A															
Rank	Team	Pts	MP	W	D	L	GF	GA	GD		Team	RUS	IRL	MEX	CHN
1	RUS	5	3	2	0	1	5	2	3		RUS		1:2	2:0	2:0
2	IRL	4	3	1	1	1	4	4	0		IRL	2:1		0:1	2:2
3	MEX	4	3	1	1	1	1	2	-1		MEX	0:2	1:0		0:0
4	CHN	2	3	0	2	1	2	4	-2		CHN	0:2	2:2	0:0	
Group B															
Rank	Team	Pts	MP	W	D	L	GF	GA	GD		Team	JPN	UKR	URU	TUR
1	JPN	5	3	3	0	0	8	1	8		JPN		4:1	1:0	4:0
2	UKR	4	3	1	1	1	6	7	-1		UKR	1:4		2:2	3:1
3	URU	2	3	0	2	1	3	4	-1		URU	0:1	2:2		1:1
4	TUR	1	3	0	1	2	2	8	-6		TUR	0:4	1:3	1:1	
Group C															
Rank	Team	Pts	MP	W	D	L	GF	GA	GD		Team	GBR	MAS	ITA	
1	GBR	3	2	1	0	1	2	1	1		GBR		2:0	0:1	
2	MAS	3	2	1	0	1	2	2	0		MAS	0:2		2:0	
3	ITA	3	2	1	0	1	1	2	-1		ITA	1:0	0:2		
Group D															
Rank	Team	Pts	MP	W	D	L	GF	GA	GD		Team	FRA	CAN	BRA	PER
1	FRA	5	3	1	2	0	5	2	3		FRA		2:2	0:0	3:0
2	CAN	5	3	1	2	0	5	3	2		CAN	2:2		1:1	2:0
3	BRA	5	3	1	2	0	2	1	1		BRA	0:0	1:1		1:0
4	PER	0	3	0	0	3	0	6	-6		PER	0:3	0:2	0:1	



